

演習 リスクアセスメント実施一覽表 (実施記載例)

リスクアセスメント対象職場	①～③の実施担当者と実施日	④～⑥の実施担当者と実施日	⑦～⑧の実施担当者と実施日	社長(工場長)	製造部長	製造第○課長

[illegible]

災害の重篤度 × 致命的、重大 △ = 中程度 ○ = 軽度
発生可能性 × 頻繁、可能性が高いか比較的高い △ = 時々、可能性がある ○ = ほとんどない、可能性がほとんどない
優先度 II = 速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。 I = 必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

※災害に至る経緯として「～なので、～して」+「～になる」と記述

リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）

リスクアセスメント対象職場			①～③の実施担当者の実施日			④～⑥の実施担当者の実施日			⑦～⑧の実施担当者の実施日			社長(工場長) 製造部長 製造第○課長		
① 作業名 (機械・設備)	② 危険性又は有害性と発生の おそれのある災害※	③ 既存の災害防止対策	④ リスクの見積り			⑤ リスク低減措置案	⑥ 措置実施後の リスクの見積り			⑦ 対応措置		⑧ 備考		
			重篤度	発生 可能性	優先度 (リスク)		重篤度	発生 可能性	優先度 (リスク)	措置 実施日	次年度検討事項			
準備作業	不良の玉掛けワイヤロープを 使用したためワイヤロープが 切れて吊荷が落下し作業者に 当たって負傷する。	ワイヤロープの毎月定期点検	×	△	III	①ワイヤロープの点検後、合格品 は色分けする。 ②品物に重量表示する。 ③使用前点検	×	○	II	●玉掛訓練の定期的な実 施 ●安全パトロールでワイ ヤロープ・吊具のチェッ クを強化				
準備作業 または組立作業	吊荷およびクレーン操作に注 意が集中しバランスを崩して 脚立から転落する。	クレーン操作者を追加する。	×	△	III	①脚立に手すりを設ける。 ②脚立の使用前点検	×	○	II	●使用用具の基準のルー ル化 ●作業台・足場台による 足場の確保				
準備作業	集積した部品（ユニット）が 転倒して、手足を骨折する。	部品の平置き	×	△	III	①作業場所の確保と整理整頓 ②部品チェックの徹底 ③重ねる、立てる場合には当ても のを使用する。	×	○	II	●作業場所の確保 ●部品の小分けを可能 にできる区分け箱の 利用				
準備作業	クレーン操作ミスで荷振れ をおこし、共同作業者を負 傷させる。	操作スイッチに作動を明示 する	×	△	III	①操作中は、他の者は吊り荷に 近づかない。 ②玉掛訓練の定期実施	×	○	II	●玉掛訓練の実施 ●操作スイッチの定期点 検（コード含む）				
組立作業	部品が滑って落下し、手足 を裂傷する。	素手作業と手袋作業の区分	×	△	III	①部品、工具の油分除去の徹底 ②素手作業範囲の周知 ③ワイヤロープ掛けの禁止部位を 決める。	×	○	II	●作業前に注意事項を確 認 ●部品を知る勉強会の実 施				
組立作業	焼き嵌め部品に接触し、腕 や手指を火傷する。	皮手、軍手の着用	△	△	II	①耐熱保護具（手袋、カバー）の 使用を徹底する。	△	○	I	●作業前の段取り確認				
組立作業	部品（ユニット）の取付けもし くは取り外し時に部品が落下 して、手や足を挟まれ負傷 する。	部品重量の確認 作業位置、姿勢の相互注意	×	△	III	①くさび、台木により、落下を想 定し保護できるよう段取りする。	△	△	II	●共同作業で行なう ●事前に吊り込みをして から作業				
組立作業	レンチやスパナがボルトか らはずれ、反動で手を打撲、 裂傷する。	工具の油分の除去 無理な作業姿勢の禁止	△	△	II	①正しい工具の使い方の教育 ②工具の代用を禁止する。	△	○	I	●工具の代用をせず正 しく使うことを繰返し 教育				

災害の重篤度 ×＝致命的・重大 △＝中程度 ○＝軽度 **発生可能性** ×＝頻繁・可能性が高いか比較的高い △＝時々・可能性がある ○＝ほとんどない
優先度 III＝直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 II＝速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。 I＝必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

※災害に至る経緯として「～なので、～して」「～になる」と記述